

授業科目名 <英訳>	フィールドワーク Fieldwork	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 田原 康玄 医学研究科 教授 松田 文彦								
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 通年集中	曜時限	金曜・フィールド	授業 形態	実習	使用 言語	日本語及び英語

【授業の概要・目的】

社会医学的な課題の解明に必要な精度の高い1次データをいかに収集するか、対象者や関係団体・自治体等との連携体制の構築も含めてその方法を体系的に修得することは、疫学を学ぶ上で基本となる学識になる。そこで本授業では、医学研究科が取り組むコホート研究（ながはまコホート）に実際に参加し、フィールドワークや地域保健の現状と課題とを実践的に学ぶ。

ながはまコホートは、最先端の医学研究と地域住民の健康づくりを目標に、京都大学医学研究科と滋賀県長浜市とが連携して実施する「0次予防健康づくり推進事業」の一環として行うものであり、市民1万余名を対象としている。当該コホートでは5年を1事業期と定め、2007年からのベースライン調査で1万人をリクルートし、続く2012年からのフォローアップ調査で、同じ1万人の再調査を行った。本事業では、2017年からスタートした第3期事業（2回目のフォローアップ調査）に参加する。

具体的には、この授業は特定健診を兼ねた現地調査（0次健診）への参加と、その前後の研修で構成される。前者については、実際に0次健診に参加し、生活習慣や病歴等に関する質問調査や各種生理学的検査を通して、フィールドでのデータ収集の実際を学ぶ。併せて、地域保健の現状や問題点について、最前線で取り組んでいる自治体の担当保健師から実情を学ぶ。0次健診を始め、事業の全ては市民団体の多大なる支援を受けて実施しており、健康づくりに関する一連の市民活動についても学ぶことで、市民の視点に立った地域保健についても学習する。2018年度の0次健診は、7～2月にかけて32日程度予定されており、履修者には5～6日間程度の参加が要件となる。

ながはまコホートは、医学研究科が総力を挙げて取り組むコホート研究であり、本専攻においても、社会健康医学の基盤であるフィールド研究を実際に学ぶ場として、大学院生に履修を強く推奨している。

【到達目標】

- ・地域における疫学研究の実際を学ぶ。
- ・地方自治体が行っている地域保健について学ぶ。
- ・地域の関係者（研究協力者、自治体、市民団体）とのコミュニケーションを通して、信頼できる情報を得るための方法、個人情報保護、長期にわたる信頼関係の在り方を学ぶ。

【授業計画と内容】

- 第1回 4月第1週 オリエンテーション
 第2回 別途指定 フィールドワーク作業の説明
 第3-14回 各自指定 フィールドワーク（0次健診への参加）
 第15回 別途指定 総括・ディスカッション

【履修要件】

一般市民を対象とした調査研究に参加するため、日本語でのコミュニケーションが可能であること

 フィールドワーク(2)へ続く

フィールドワーク(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

講義、実習への積極的な参加（90%）およびレポート（10%）

[教科書]

使用しない
なし

[参考書等]

（参考書）
なし

[授業外学習（予習・復習）等]

フィールド（滋賀県長浜市）で実際の健診活動に携わることを中心とする。予習は特に必要ないが、実習に基づくレポートを復習と位置付ける。

（その他（オフィスアワー等））

- ・第1回、第2回は必ず出席してください。（欠席の場合は要事前連絡）
- ・0次健診への参加日は、各自のスケジュールを調整のうえ個別に指定します。

人間健康科学系専攻学生の受講可否：可 若干名（希望者は事前に連絡してください）

総合生存学館の学生の受講可否：可 若干名（希望者は事前に連絡してください）

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。